

9月3日(日)

新米シーズン到来!

明太子食べ比べ祭



博多ふくいち  
辛子明太子

100g **580円** (税込)

宮近焼き明太子

100g **580円** (税込)

明太銀鮭

1切れ **250円** (税込)



西田鮮魚店

☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489  
(旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

こんにちは！朝晩と涼しくなり、過ごしやすいい日が続いておりますね。一部地方では、異常な暑さのため稲刈りを早めるところもあるみたいです。何でも暑さで乾燥しすぎて、米がひび割れるからという事らしく…新米もあと少しですね。

そんなご飯に良く合う今回の広告、『博多ふくいちの辛子明太子』、『宮近の焼き明太子』、そして大人気『明太銀鮭』の3種類。一気に販売の明太祭りとなっております！全部美味しいやつじゃん！

わたくし奥原一家は明太子が大好きなので、奥原家のための広告のような気さくしてくるほど、テンションが上がっております！

毎回広告をやらせて頂いておりますが、来店される皆様に「あれ美味しかったよ」「今度いつ入るの?」とおっしゃって頂ける瞬間が一番の喜びです！私の中で例えるなら、サプライズでプレゼントをあげて、予想異常に喜んで貰えた時の感覚のようです。買い物に来てくださる皆さんのお声や仲間の笑顔で元気が出てくる！良い歳の取り方したなあと、この歳になってより深く思えるようになりました。

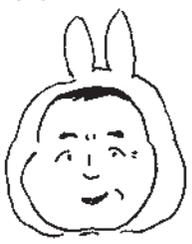
この店で働き早10年が過ぎますが、西田鮮魚店は私たちが造って来たのではなく、庄原という町と皆さんのお陰で成長してきたんだな、と感慨深いです。どうぞ皆様これからも、気軽に会話や顔見に足を運んでやってください！

今日は、大好きな娘達の所にも明太祭りを届けなければ…父は、忙しい(笑)

西田鮮魚店 奥原 歩久斗

# 『雷とエコキュートと花火大会と』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



盆前に生れた台風6号・7号あたりから列島を雨と猛暑が襲う。新幹線のダイヤが乱れ大混乱の駅。帰省客の動きが一日早まった。ピークのはずの14日の新鮮市場の売上も予測を大きく下回った。台風が去り全国で猛暑が続いた。体温を上回る気温が各地で：。線状降水帯。真夏日。そんなワードが連日ニュースを賑わした。そしてよいとこ祭りのこの週、庄原は『雷雨』の予測が続いた。

よいとこ祭り2日目の花火大会の天気を悦子は気にしている。

中国新聞1面の週刊天気予報を毎朝チェックし、さらにネットで、時間ごとの天気も：。「おはよう」のあいさつの次は天気予報だ。「一日中、雨になっている」「午後から40%らしい」「昨日の予測では曇りになっていただけ今日は雨になつとる」「1ミリじゃと」。日々、変わる。

花火の日。悦子のフラの仲間の女性たち十数人が我が家で、いっしょに花火を見ることになっている。子供たちも帰ってくる。たぶん、40人近い人数になる。それを一手に引き受ける悦子は、それは、気が気ではないだろう。私は「ふ〜ん」と生返事。

最近の天気予報はみごとに当たる。とはいえ、庄原が雨となったからといって、全域で降るわけではない。とくに、最近は、三日市で降っても上野池は晴れているなんてこともザラ。その日にならんと：。

毎日、雨の予報はあつても、我が家の周りでは降らない。ただ雷はゴロゴロ、ドカンと騒がしい。そんな日が続いていた。



そんな中、大事件が起こった。

25日の金曜日の夜。風呂に入った私。風呂の温度と湯量を示すパネルに、見慣れない『C21』と表示が出ているのに気がついた。しかし、別段かわったこともない。気にせず、そのまま出た。翌朝、悦子が「たいへん。お風呂の湯の量が増えんのよ」と言ってくる。そうかあ、あれはトラブルの表示か。

お世話になっている水道設備の会社に電話しても土曜日は休みとかで出ない。どうしよう。明日は子供と孫が13人帰ってくる。食洗器も使えないぞうだ。40人もの食事があるのに。

悦子はひとり気をもんでいる。私は相変わらず生返事。「そうだ」と悦子。娘の友達のお父さんが水道関係の仕事をされていると思ひ出し、相談してみると電話した。ありがたいことに、すぐ来てくれた。『C21』は消えた。しかし、湯量は増えない。もう一度、電話したが、メーカーが休みなので、月曜日までどうにもならないと、申し訳なさそうに言われた。万事窮す。

ボーっとテレビを見ている(ように見える)私に注がれる厳しい視線。ただ、私もボーっとしているわけでもなく、頭の中では、どうしようと考えを巡らせている。「こういうことは、ふつう、男の人がするもんなんじゃけどね」、これは悦子の口癖。不器用な私は、何が壊れようが手を出さない。もつと壊れる恐れがあるから。そんな私のありように、常々、不満があるらしい。37年も一緒に暮らしているのだから、いいかげんわかってくれてもいいと思うのだが。今回も、とうてい、自分の手に合うことではなさそう。誰かに頼るしかない。

ぞうだ。岡崎さんだ。この家を建てた小林建設の岡崎さんならなんとかしてくれるに違いない。すぐに電話。まづい。出ない。

次の手袋だ。うちのすべての店を建築してくれている近藤社長に電話。ただ彼は広島の人。電話に出た近藤社長に事情を話すと、『エコキュート(給湯器)』のブレーカーを落としてみてくれと云う。このところの『雷』で、同じような電気系のトラブルが多発しているのだと。そう言えば、前の日、『雷』が鳴り続ける中、部屋で『キングダム』を読んでいると、いつもと違った光がピカッと走った。「なに？」とあたりを見まわした。あの時のあれかあ。しかし、ブレーカーを落として、入れ直しても反応なし。

そんなところに岡崎さんから電話があった。私の第一声は「助けて！岡崎さん」。状況を話すと、岡崎さんも、原因は『雷』でしようと言ふ。『雷』が入ったその機械はもう使えないらしい。替えるしかないと：。しかし、在庫は無いと言われる。もう一度、「助けて、岡崎さん」。すると「中古の在庫があるかもしれないからあたってみます」と言つて電話を切られた。5分くらいして「ありました。今から行きます。」「ありがとう岡崎さん」。すぐに、職人さん2人と駆けつけてくれた。そぼ降る雨の中、無事取り付け完了。これでみんな風呂に入れる。一時はラフォーレにお世話にならなければいけないかと話していた。ほんと助かった。「ありがとうございました、岡崎さん」。

花火大会当日。晴れ。さすがに雨は降らんじやろ、というほどの快晴。しかし：。

悦子たちは市民会館で催された芸能祭でフラを披露、日ごろの成果をたくさんのお客さまに見ていただいて帰ってきた。踊り終えた広島島のメンバーたちは舞台衣装かと思うくらいの派手な、いや、まるでハワイから帰ったかのような素敵な衣装。家が華やいだ。子供たちも三々五々、孫や犬を連れて帰ってきた。

準備を始める。下準備は悦子がすませているから、テーブルヤイスを並べ火をおこす。

5時過ぎ、あれだけ晴れていた青空の一面に灰色の雨雲が広がる。まさか。子供たちが、B B Qコンロの上だけはテントを張ったほうがいいというので、急ぎよ、小ぶりのテントを出す。結局、降らなかったが、テントのせいで、コンロの周りは蒸し風呂みたいに暑かったぞうだ。

そのテントの下で、アウトドア大好き、日曜大工が趣味という、私と正反対の弟(篤生)が指揮をする。その指揮のもと動きまわってくれたのがオオイシさん、シンノスケ、マナブ君たち。肉を焼き、ささえを焼き、イカを焼き、さらに習いたての、杉板にのせて燻製にしたサーモンまで振る舞ってくれた。兄弟でこどもも違ふとは。頼りになる弟だ。

4年ぶりの花火大会。いつにも増してきれいだった。華麗だった。庄原の花火大会の決定版、ファイナルの『ナイアガラの滝』もくつきりと鮮やかだった。

そして庭では、花火の前と後で、大石先生率いる『ハーラウ マナオラナ』のフラも堪能した。見入った。ブラボーの声がとんだ。

今年は、池のまわりの歩道に立ち入り禁止のテープを張り巡らし、場所取りをしないように、立ち止まらないようにと注意喚起してあった。その分、亀井先生邸の前の空き地を観覧席にしたりと工夫がされていた。賛否あつたみたいだが、安全、安心な花火大会を優先するのは時代の流れなのだろう。

地球温暖化が、コロナが社会を変える。

2023年9月3日